

詩編 23 : 1~6

ルカによる福音書 9 : 10~17

「五つのパンと二匹の魚」

<大きな奇跡>

今日の箇所では、イエスさまが五千人以上もの人々を、たった五つのパンと二匹の魚で満腹にさせられた、という奇跡が語られています。

これはどういうことなのかと、多くの人が考えてきました。ある人は、五千人の心が満たされたのだ、という精神的な事に置き換えました。ある人は、弟子たちがわずかなものを差し出したのを見て、人々が実は自分が隠し持っていたものを分け合ったのだ、と考えました。

でも、この奇跡をわたしたちが合理的に、常識的に納得できる形に変形させる必要はありません。聖書はこれを、イエスさまが行われた奇跡、神の御業として伝えているのです。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四つの福音書すべてに載っているのは、この奇跡の御業だけです。イエスさまがこの奇跡の御業を通して、わたしたちに何を示されたのか。そのことをしっかりと見つめることが大切です。

これは、神の国を宣べ伝えておられるイエスさまが、まさにご自身が神の国、神のご支配を実現して下さる方であることを示して下さった出来事です。そして、ルカによる福音書でこれまで何度も問われてきた、「この方はいったい何者だろう」という問いの答えを示しているのです。

<使徒たちの報告>

さて、まず 9 章に入りまして、1~6 節のところで語られていたのは、イエスさまが、ご自分が選ばれた十二人の使徒に、病気をいやす神の力と権能をお授けになり、人々に神の国を宣べ伝えさせるためにお遣わしになった、ということです。

神の国とは、神のご支配のことです。神さまのご計画に従って、罪と死の支配に捕らえられている人間を救い出すために、神の御子イエスさまがこの世に来て下さった。この救い主イエスさまが、人が支配されている罪と死に打ち勝ち、神さまの恵みのご支配を始めて下さる。いや、イエスさまが来られた今や、この方の御許で、もうすでにその恵みのご支配がここで始まっている。この恵みを受け入れ、信じなさい。神のご支配の内に生かされる者になりなさい。それが、イエスさまが語って来られた「神の国」であり、十二人が派遣されて宣べ伝えたことです。

そして、先週ともに聞きました 7~9 節までの箇所は、派遣された使徒たちが、イエスさまに授かった力によって、各地で神の国を宣べ伝えた結果、人々の間でイエスさまのうわさが広まり、この方はいったい何者なのか、という様々な憶測がなされ、それが領主ヘロデの

耳に入った、というところでした。

ヘロデもまた、「いったい、何者だろう」とイエスさまに対して関心を持ち、会ってみたい、この方と出会って、何者なのか知りたい、と願ったのでした。

今日の箇所はその続きとなっていて、10 節に「使徒たちは帰って来て、自分たちの行ったことをみなイエスに告げた」とあります。自分たちの働きをイエスさまに報告したのです。これだけ人々の話題に上るほどですから、使徒たちにも手ごたえがあったでしょうし、意気揚々と喜んで報告したに違いありません。

するとイエスさまは、彼らを連れ、自分たちだけでベトサイダという町に退かれました。「自分たちだけで」ということは、他の人々や群衆から離れるということです。イエスさまは、ご自分と使徒たちだけで、静かな時を過ごそうとされたのです。

12 節で、十二人が「わたしたちはこんな人里離れた所にいるのです」と語っています。そこはベトサイダの町の、人里離れた所だったということです。

イエスさまがこれまで人里離れたところへ行かれたのは、祈られる時でした。イエスさまは、派遣されてその務めを果たしてきた使徒たちに、イエスさまと共に静かに祈る場所を与えようとしたのです。

祈りとは、神さまとの交わりです。旅をして、活躍して、テンションが上がっている使徒たちにしっかりと神さまを見つめさせ、神さまとの交わり、またイエスさまご自身との交わりをしっかりと取り戻し、新しい力を得させようとしたに違いありません。

マルコ福音書では、イエスさまはここで「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」と言われた、とあります。「休み」というのは、「安息」のことです。仕事を休む安息日は、ただ仕事を休む日ではなく、仕事を中断してでも、神さまとの交わりの時間と場所を大切に切り分けるために定められています。休む、というのは、ただ体を休めて、のんびりすることではなくて、静まって、心を神さまに向けて、神さまとの交わりと与って、まことの安らぎと、新しい力をいただくことなのです。

<食べ物はどうするか>

ところが、そういう時を持とうとしたら、群衆がイエスさまを求めて後を追いかけてきました。教えを聞きたい、病をいやしていただきたいという人々が、イエスさまの御言葉と力を求めて、押し寄せてきたのです。イエスさまはこの人々を迎え、神の国について語り、治療の必要な人々をいやして下さった、とあります。イエスさまは、ご自分を求める者たちを喜んで迎え入れ、受け入れ、恵みを注いで下さるのです。

それにしても、いったいどれだけの人がイエスさまのもとに押し寄せたのか。神の国を語り、病人を癒しておられる内に、とうとう日が傾きかけた、とあります。14 節には「男が五千ほどいた」、と記されています。女や子どもも含めると大変な数になるでしょう。

それでとうとう十二人は、そばに来てイエスさまに言いました。「群衆を解散させてくだ

さいそうすれば、周りの村や里へ行って宿をとり、食べ物を見つけるでしょう。わたしたちはこんな人里離れた所にいるのです。」

ところがイエスさまは、十二人にこう言われました。「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。」

いったい五千人以上の人々に、十二人でどうやって食べ物を与えたらよいのでしょうか。それが出来ないから十二人は、人々が自分たちで宿を取って食事がとれるように、早く群衆を解散させてください」とイエスさまに進言したのではないのでしょうか。

弟子たちは言いました。「わたしたちにはパン五つと魚二匹しかありません、このすべての人々のために、わたしたちが食べ物を買に行かないかぎり。」

わたしたちにはこれっぽっちしかないですよ。これでどうするんですか。五千人分買に行けて仰るんですか。出来る訳ありません。わたしたちにはそんなことできません。

弟子たちの、少々イラっとした、不平不満がこもっていることがよく分かる返答です。

もちろん現実的には、弟子たちの言っていることは常識的で、当然の反応です。手持ちの食料は足りないし、これから五千人の食べ者を買に行くなんて、絶対に不可能です。

でも弟子たちは、ここで、もうすっかり忘れてしまっているんじゃないでしょうか。自分たちが誰に従っているのか。「食べ物を与えなさい」と命じられた方がどなたなのか。そして、自分たちがイエスさまに選ばれた使徒であり、使徒とは、イエスさまに与えられた力によって務めを果たす者だということを。

弟子たちは、つい先ほど、イエスさまから授けられた力と権能で、神のご支配を告げ、人々から悪霊を追い出し、病を癒して、帰ってきたところです。本来、自分の力では決して出来ない業を行なってきたところです。

そして、遣わされる時に彼らは「何も持って行ってはならない」と教えられました。神の力の上に徹底的に頼ること。すべては神による御業であり、神の力によって、そのことが成し遂げられることを、教えられていたのです。

しかし、もしかすると、弟子たちはいつの間にか、神が力を与え、神がその業を支えて下さっていたことを忘れてしまい、それらのことを自分の力で成し遂げたかのような感覚に陥っていたかも知れません。

だからこそ今、弟子たちはイエスさまに命じられたことを、自分たちの力で何とかしなければならぬと思っているのではないのでしょうか。だから、自分たちにやれと言われても、あれがない、これがない。そんなことは無理だ。常識では出来ないことだ。そんな風に不平不満を言いだしたのではないのでしょうか。

わたしたちも、神さまから務めを与えられようとする時、自分にそんな力はない。時間がないから出来ない。能力がないから出来ない。そんな風に、自分が持っているもの小ささや

足りなさ、限界ばかりを見つめて、不平や不満を言っているかも知れません。

でも、使徒たちも、わたしたちも、十分な力を持っていたり、完璧な能力があるから、選ばれ、働きに召されるわけではありません。イエスさまがその人を選び、あなたを用いたいと仰り、それに必要な力を与えて下さるから、賜物を授けて下さるから、それを行なうことが出来るのです。イエスさまは、恵みを共に見させようとして、ご自分の御業に召し出し、用いて下さるのです。

そのことを弁えて、イエスさまがなすべきことを命じて下さった時に、「あなたのご命令になった働きをわたしが出来るように、賜物と力を与えて下さい」と、イエスさまにすべてを頼り、委ね、召されたことを喜んで従える者になれるなら、それはとても幸いなことだと思います。

<奇跡>

さて、不平不満を言う弟子たちに、イエスさまは「人々を五十人ぐらいずつ組みにして座らせなさい」と言われました。弟子たちがその通りにすると、イエスさまは弟子たちが持っていた五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、それらのために賛美の祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡しては群衆に配らせた、とあります。

イエスさまは弟子たちのわずかな持ちものを取り、それを祝福され、再び弟子たちの手にお返しになり、弟子たちの手から人々に配らせたのです。

すると、「すべての人が食べて満腹した」とあります。精神的な満足や、気持ちの問題ではありません。満腹した。五千人のお腹が満たされたのです。そして、「残ったパンの屑を集めると、十二籠もあった」とあります。

弟子たちが、これっぽちのものでは何の足しにもならない。無に等しい。何の役にも立たない。そう言ったものでも、イエスさまの御手にそれを差し出し、イエスさまが祈り、祝し、用いて下さるなら、たった五つのパンとたった二匹の魚は、五千人の人々の飢えを満たし、さらに豊かに余りあるほどのものとなるのです。

これは、このイエスさまこそが、迷い出た人々を集め、養い、命を与える方であること、神さまの恵みのご支配を実現する方であることを示す、神の御業です。

詩編 23 編で語られていました。「主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。主はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴い／魂を生き返らせてくださる。」

この旧約聖書に預言された羊飼いこそ、イエスさまなのです。この方が羊飼いでいて下さるなら、羊であるわたしたちは、この方に守られ、導かれ、養われ、何も欠けることはありません。この方のご支配の中に生かされることこそ、まことの救いであり、慰めであり、平安です。それが、神の国なのです。その神の国が、このイエスさまによって実現するのです。その神の恵みが、養いが、今この五千人のうえに、実現しているのです。

イエスさまは群衆を満たし、養われ、さらに有り余る恵みで溢れさせて下さいました。

しかもそのために、弟子たちの手が用いられました。弟子たちは、小さな、何の役にも立たないような、僅かなものしか持っていませんでしたが、それをイエスさまの御前に差し出し、その御言葉に従って仕えるならば、イエスさまはそれを取り、祝福し、弟子たちの手を用いて、人には思いもよらない恵みの御業、五つのパンと二匹の魚で五千人を満たすような、驚くべき御業を行なって下さるのです。そして弟子たちは、その素晴らしい恵みの御業を、最も近くで体験し、目撃させられるのです。

<何者か>

弟子たちはイエスさまの御許で、この神の御業に用いられ、恵みを経験し、有り余るほどに満たされました。そうして、共にいて下さるこのお方が、いったい何者か。飢えた羊の群れを豊かに養って下さるこのお方が、いったいどなたなのか。そのことを現実として知らされていくのです。

次週は、イエスさまが弟子たちに「あなたがたはわたしを何者だと言うのか」と問われます。ペトロは答えます。「神からのメシアです。」あなたは、神に遣わされた救い主です。

イエスさまは、神の国の教えを通して、御業を通して、一緒に歩み、用いて下さることを通して、ご自分が何者かを示して下さい、信じる者へと、信仰を告白する者へと至らせて下さるのです。

でも、一度告白したらそれで完成ではありません。この後もペトロは裏切りますし、イエスさまがどなたか分からなくなることもあります。でも、何度でもイエスさまは出会って下さり、導いて下さり、ご自分が救い主であることを示して下さいるのです。

わたしたちもまた、救われ、満たされ、生かされて、この方が救い主であることを知らされます。知った後もまた、わたしたちはつまずいたり、弱ったり、倒れたりします。それでもイエスさまが共にいて下さり、養い続けて下さることで、また用いられ、恵みの御業に与らせていただくことで、何度でもこの方の恵み深さ、憐れみ深さ、そして愛の深さを、示されていくのです。何度も、この方こそ救い主であることが示されるのです。

ルカによる福音書では、イエスさまは、これから十字架への道を歩いて行かれます。御自分の死によって、そして復活の御業によって、イエスさまはわたしたちを罪の支配から解放し、神の恵みの支配へと導いて下さいます。罪と滅びの中にあったわたしたちは、この方に救い出され、導き出され、豊かに養われ、溢れるほどに満たされ、御許で共に生きることが出来るのです。この方こそ、まことの羊飼。まことの王。わたしたちの救い主です。

【お祈り】

天の父なる神さま

まことの羊飼、まことの王、救い主イエスさまを、わたしたちに遣わして下さり感謝いたします。イエスさまは、わたしたちを豊かに養い、導き、命を与えて下さるお方です。この恵みに与っていることを覚え、この方が救い主であることを固く信じさせて下さい。

そして、イエスさまが望まれる時には、どうぞわたしたちを用いて下さい。わたしたちはわずかなものしか持たない者ですが、イエスさまがそれを用い、祝し、さらに豊かに、さらに大きく、わたしたちの思いを超えて御業を成し遂げて下さいます。ただ神さまの力に信頼して、イエスさまに従う者とならせて下さい。

イエスさまと共に、恵みの御業を目撃し、あなたの愛と恵みに驚きつつ、感謝しつつ、ますますイエスさまの救いの恵み深さを、神の御子の愛を知っていくことが出来ますように。

そして、神の国がますます告げ知らされ、一人でも多くの者が、イエスさまの恵みにあずかり、新しく命を与えられ、共に養われ、共に恵みに与る者となることが出来ますように。

イエスさまの御名によって祈ります。アーメン